



2007.9.10 No.4

1. MARUNOUCHI CAFE 参加記

山口市吉田 1677-1 時間学研究所

<http://www.rits.yamaguchi-u.ac.jp>

(最新の告知は上記ホームページをご覧ください)



MARUNOUCHI CAFE 参加記

日本科学未来館（東京都江東区）にて開催された「時間旅行展—TIME! TIME! TIME!」の一環として、東京丸の内でのサイエンス・カフェが実施されました。時間学研究所スタッフとして講演をされた藤沢健太教官より参加記を執筆頂きましたので、下記に掲載いたします。

MARUNOUCHI CAFE 参加記

藤沢健太

サイエンス・カフェという呼称が広く使われるようになってきた。講演会のように形式張らず、カフェのスタイルでくつろぎながら先端の研究を行う人々と語ろう、というのが趣旨だそうである。ともすれば敷居が高くなりがちな研究と市民を結ぶ場所として、面白い試みだと思う。

時間学研究所で行っている研究をサイエンス・カフェに「出品」してほしいという依頼があり、今年4月21日から22日にかけて辻先生をはじめ数名が東京都台場の日本科学未来館に出かけた。その続きとして5月8日、今度は東京都の丸の内に出かけた。以下はそのときの様子を記したものである。

場所は東京都千代田区丸の内、いわゆる丸の内のオフィス街の只中である。近くには文部科学省が入っているビルもある。時間は19時からなので、参加者には会社帰りのビジネスマンが多いだろう、日本を代表するビジネス街の仕事人たちに気後れしてはいけないということで、普段はめったに着ないスーツにネクタイで出かけた。このサイエンス・カフェは事前申し込み制であり、参加費は1500円である。この条件で参加してこられるお客さんは、観客としてはかなり手ごわそうである。

会場の MARUNOUCHI CAFE は新東京ビルの2階にあり、1階はネットカフェとなっている。会場は普通の喫茶店を少し大きくした程度で、窓側にごく低いステージがあり小規模なライブもできそうである。家具調度品、照明などまさにカフェ風であり、周囲に取り付けられた本棚には芸術関係の図書が並んでいてお洒落で気が利いている。開始時間が近づくと少しずつお客さんがやってきた。私の予想に反してビジネスマン風の方はほぼ皆無、大部分の方はくつろいだ装いで、しかも大半が女性であった。お客さんには飲み物も配られ、なるほど雰囲気もたしかにカフェである。開始時刻には30人を超える方が着席されていた。

今回のサイエンス・カフェのタイトルは「Science×Design vol.1」－時間をデザインする－である。講師はこの春に山口大学から千葉大学へ異動した一川誠先生、藤沢、アーティストの田中陽明さん、そして日本科学未来館の内田まほろさんの4人である。まず内田さんから時間学研究所と日本科学未来館との共同で作った時間旅行展について紹介、そして講師が紹介され、続けて私が宇宙の時間について、一川先生が錯視の視点から心の時間、最後に田中さんが時間のデザインについて、それぞれ映像と共に解説を行った。いつもの事ながら、一川先生の錯視映像には皆驚かされるようである。映像を出す度に開場からはどよめきが広がっていた。

講師4人ともつつい解説に力が入って予定の時間を超えてしまったが、終了時刻を過ぎても熱心に質問が飛んできた。質問は、錯視にかかわる具体的な質問もあれば、「時間とは何ですか」というストレートなものもあり、答える方も一瞬だが肝を冷やした。最前列に若い男女2人が陣取って、ノートを広げて熱心にメモを取っている様子が印象的であった。最終的に予定時間を30分も超過し、21時に閉幕となった。

今回のイベントは、お客さんたちにどう受け止められただろうか。アンケート結果を見ていないので何とも言えないが、時間について語り、考えたひと時が、有意義な時間だったことを祈るばかりである。

日本科学未来館 <http://www.miraikan.jst.go.jp/>

丸の内カフェ <http://www.marunouchicafe.com/>